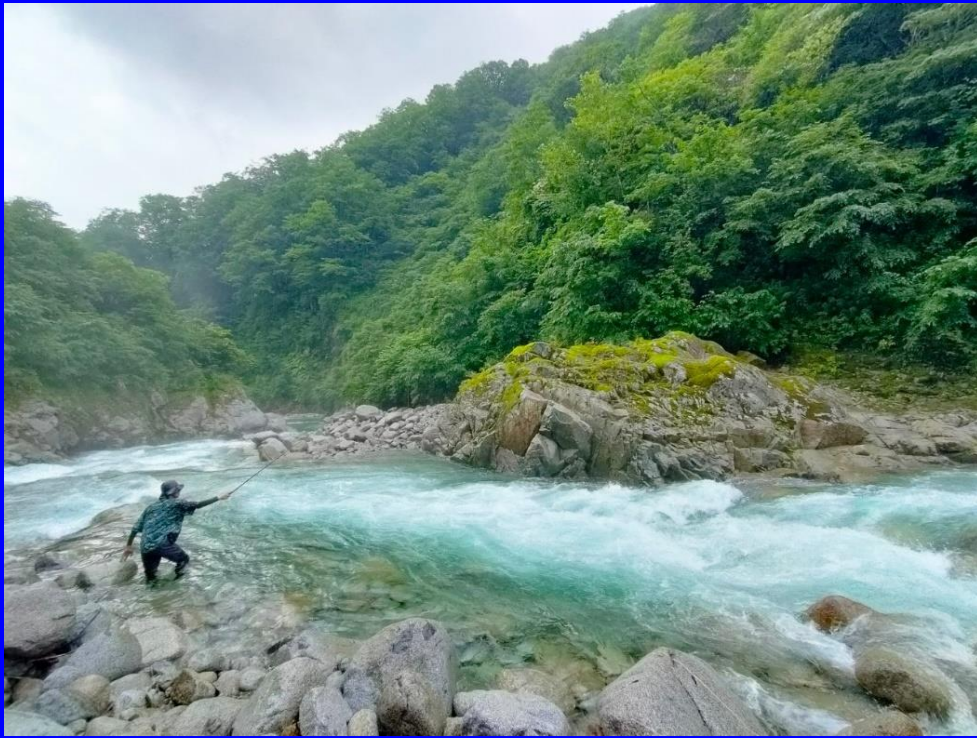


色んなトレ高が詰まった山旅！



2024/7/26～28

平江、寺尾、塩塚、五百川（報告）

0725 深夜

集合地点までのオフロード運転に疲れて到着するも、平江さんに笑顔で迎えられると疲れも忘れる。安心感と今回の釣行に期待が膨らむ。その後、ハスラー、フォレスターも無事到着。談笑もそこそこに、明日に備えて早めの就寝。1:30?

0726

実は、今回の釣行では、前日までの雨によって川が増水している可能性があること、三日目が雨予報ということで少し不安のあるものだった。しかし、朝起きると空から光が差し、夜中の雨は止んでいた。「これじゃあ行くしかねえなあ。」と寺尾さんの言葉に、自分も意を決す。

7:15 出発

標高 700mから 1250mを3時間かけて登る。曇天に助けられ、暑さ気にせず順調に登る。まさかの足止めを食らったのが、第一の採れ高、タマゴタケ!鮮やかな赤い傘に白い卵のようなつぼが美しい。立派なサイズのタマゴタケが大量発生!これまでキノコを採った経験のなかった塩ちゃんも、「タマゴタケなら任せてください!」と、タマゴタケ限定のキノコ採り名人と化す。





道中、寺尾さん、平江さんから、チチタケ、ヤマドリダケ、タケリタケと、様々なキノコの謂れを含め教えていただいた。

10:20 下降開始

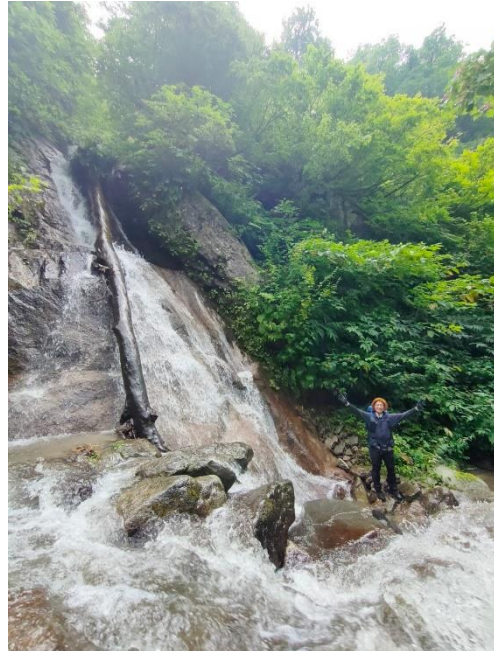
下降前の休憩で登山者が登って来る。「今回はどちらまで？」とお決まりの会話。登山者から、「これから右の登山道ですか？左の登山道ですか？」の問いに、「いえいえ、真っすぐ。この藪を進んで下りて行きます。」の会話が可笑的。去年のデジャブかなとも思った。

標高1250mから900mまで下降。枝を掴み、尾根伝いに急勾配を下りて行く。



12:00 沢に到着 沢下り開始

目的の川へは、この沢を下降していく。前日までの雨により増水。足元も見えづらく厳しい下降だった。寺尾さんの膝を心配したが、「ステロイド飲んでるから大丈夫!」と、問題なし?だった。



15:00 テンバ到着

目的の川との出会い付近にテンバをとる。釣りがしたいとウズウズしていた塩塚君と私は出合へ向かったが、、、本流は釣りにならない増水にて撤退!



テンバでの様子は写真でどうぞ~ やっぱ沢で飲んで食べ語らう時間は最高です

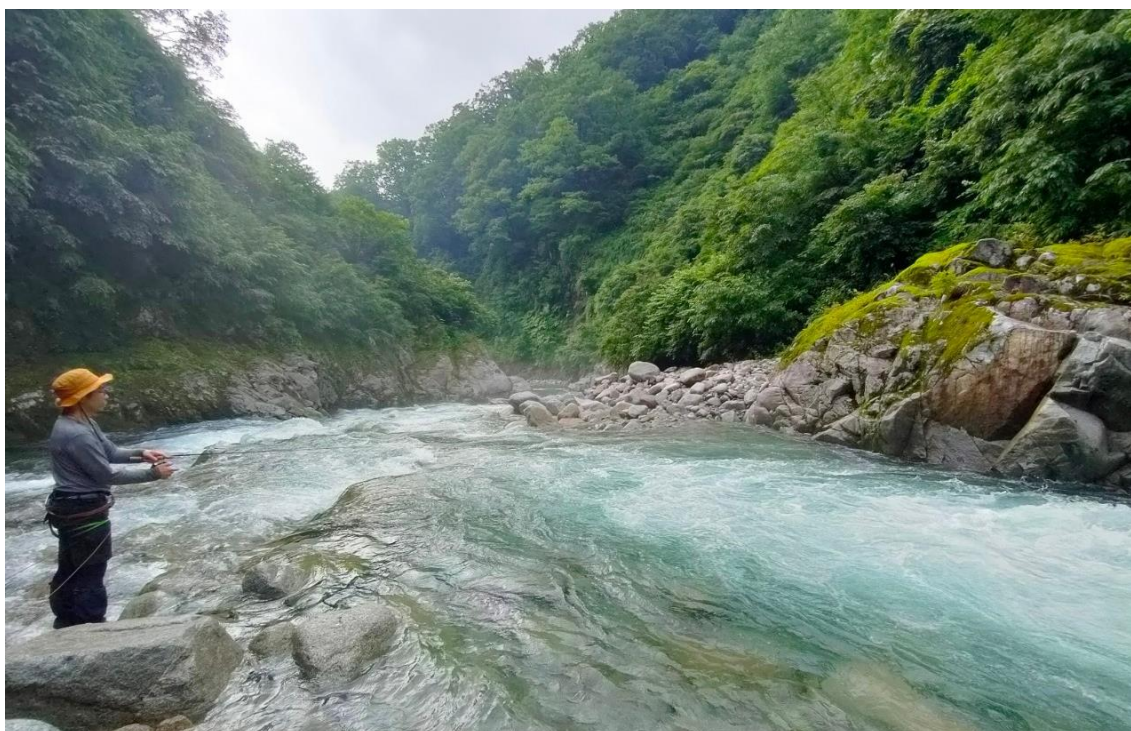


源流タマゴタケごはん!

0727 二日目

昨日の増水の様子から、出会いから釣り上がり不可と判断。高巻いて下降点を探す。道中、物凄い藪(蔓付き)に苦戦するも沢に到達。釣りを開始する。

下降地点で、私からテンカラを振らせていただく。すぐに岩魚が顔を出して飛びついてくる! 活性高し! と見た仲間も釣り始める。来ました! 来ました! 第二の獲れ高! 岩魚祭り!!!





結果、爆釣。毛鉤を流すと良型岩魚が飛び出してくる。これぞ人の入らぬ源流というほどに。寺尾さんがのカッコいい写真の撮れ高もあったので1ページの特集を掲載。

と、読者の皆さんはお気づきだろうか。。。背景の景色があまり変わっていないことに。

実は、増水もあり遡行難しく、下降地点から50mくらいの区間だけで釣っていたのだ。それにしても、釣りができる3つくらいのポイント、それぞれで尺クラスが数匹居付いていたから驚きだ。改めて、この溪のポテンシャルの凄さを感じた。

朝ゆっくり出て、お昼にはちゃんとテンバへ帰宅する。昼食にラーメンを食べ腹ごしらえをした後、平江・塩塚ペアは、出合いで釣りができないかともう一度出発。出合いでは、少し高巻くと釣りができたそう。写真にはないが、平江さんは、大物を掛け、テンカラ竿が折れてなお、ラインを手繰って釣り上げたと言った。出合付近でもいい釣りができたとのことだった。夕まづめで、下降してきた沢をやったが、そこでも十分な釣果があった。

夜は岩魚尽くし。







↑酔った寺尾さんからフライパンを譲り受けました。大切にします。テラオパン。



あ————最高ですね。

写真を見ていると、また行きたくなる。

帰路は、新規の尾根ルート。大雨の中、登りの距離もあったが危険も少なく無事帰ることができた。大雨でも安全に帰れるルートを開拓できたことも取れ高の一つ。



塩塚くんとは同い年と判明。塩ちゃんと呼ぶ仲に。

平江さん、寺尾さん、俺たちはあと何年行けるか、、、なんて話も出ましたが、また来ましょう。絶対に。



おつかれ山でした!